

# 廃プラ類などフラフ燃料化

## 粉碎と全面圧縮梱包機を導入

収集運搬から中間処理、最終処分まで一貫した処理で実績を持つ磨芥センター（香川県高松市、平尾範明社長、☎087・886・3040）は、廃プラ類などを粉碎してフラフ（燃料）化し、全面を圧縮梱包してユーザーに提供するための新しいを導入した。

ウエノテックス製の

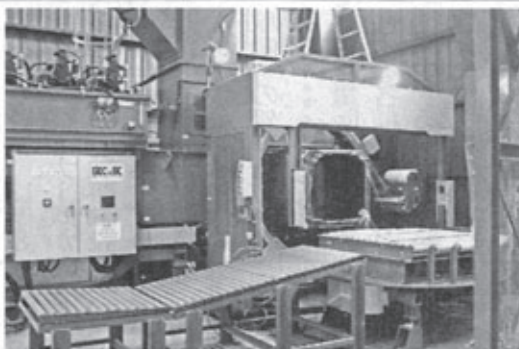
1軸破碎機を新設し、粉碎した燃料を利用者が使いやすい、輸送効率を高めるため、サイコ口状にして、6面全

部を圧縮梱包する機械を採用。施設の変更に伴う高松市産業廃棄物処分量の許可書の書き換えも終了し、完成し

た施設で、受け入れ稼働をスタートした。新施設は、廃プラスチック類などを粉碎して、フラフ状態となった燃料を圧縮梱包する。処理能力は、廃プラ類が日量30t（10時間稼働）、紙くず同30t、木くず同30t、繊維くず同30t、ゴムくず同30

ととなっている。同社は、創業以来、香川県内や四国各県の各種施設の浚渫、吸引、ならびに産廃、一般廃棄物の収集、運搬、処理業務で、環境美化、環境汚染の防止・生活環境保全に取り組んできた。焼却処理では、単に燃やすだけでなく、効率の高い、効果的な処理方法を模索して、医療系廃棄物などの特別管理産廃も処理してきた。脱水では、有機無機を問わず、スクリーンプレス方式で多彩な汚泥を適正処理している。堆肥化したコンポストは、地域の農家などに提供、期待

が大きい。



6面圧縮梱包機



粉碎機